

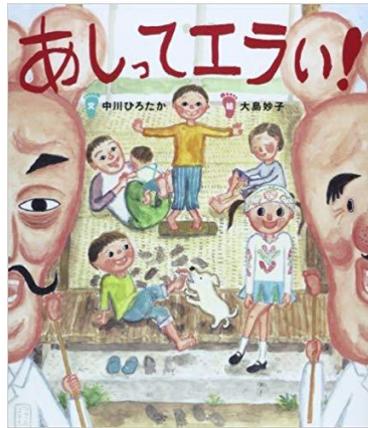
おはなしだより 5月

<年長>

あしってエらい!

文 : 中川 ひろたか
絵 : 大島 妙子
出版社: 保育社

運動会のかけっこで一番になったのも、サッカーでボールを蹴ることができるのも、みんなの前で踊れるのも、“あし”のおかげ。きょねん生まれたぼくの弟。はじめは歩けなかったのに、手足をいっぱい動かして、そのうちはいはいして、イスにつかまってたっちして。とうとうお誕生日が過ぎた頃にひとりで立った! すごいよ、あかちゃんって。すごいよね、あしって。



あさになったので まどをあけますよ

作・絵: 荒井 良二
出版社: 偕成社

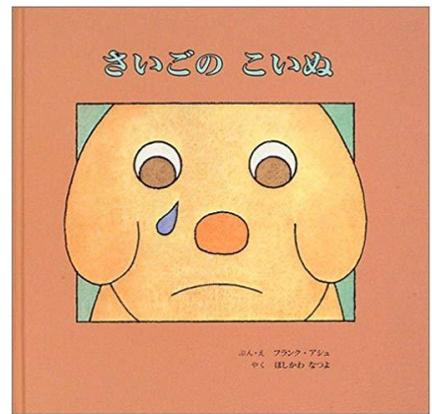
「あさになったので まどをあけますよ」「やまは やっぱり そこにいて きは やっぱり ここにいる だから ぼくは ここがすき」山間のちいさな村や、たくさんの人々と車が行き交うにぎやかな街、色とりどりの植物が生い茂る土地。それぞれの場所で、朝をむかえた子どもたちが、あたらしい一日のはじめに窓をあけます。朝、めざめて窓をあける、という何気ない日常と、窓の外に広がるあたりまえの風景。けれども、その日常のくりかえしの中にこそ、生きるよろこび、そしてたしかな希望があることを、そっと気づかせてくれる一冊です。

<年中>

ありがとうのえほん

作・絵: フランソワーズ・セニョーボ
訳 : なかがわ ちひろ
出版社: 偕成社

にわとり、めんどり、おひさま、おうち……。私の世界を支えてくれるたくさんのもたちを感謝の気持ちをこめて、温かく描き出す。



さいごのこいぬ

作・絵：フランク・アッシュ

訳：ほしかわなつよ

出版社：童話館出版

3匹産まれた子犬の一番末っ子の子犬が、何をやっても一番最後でうまくいかない。そんな子犬の悩みがじんじん伝わって来て、ちょっぴりかわいそうになって、大丈夫！大丈夫！と言葉をかけたくなります。でも、最後にその末っ子子犬に愛情をかけてくれる飼い主さんが現れます。その少年は笑いながら、いったよ。

「ねえ、してる？きみは、ぼくの さいしょのこいぬ だってこと」

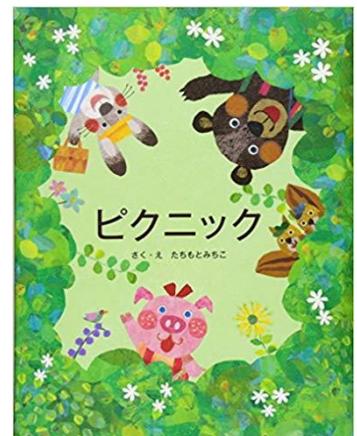
<年少>

あかちゃんもってる

作・絵：吉田 戦車

出版社：河出書房新社

つみ木をもって、泥だんごをもって、クレヨンをもって、おはしをもって、カバンをもって、消しゴムをもって、サイフをもって、包丁をもって、携帯をもって…いろんなものといっしょに君は生きていく。



ピクニック

作・絵：たちもと みちこ

出版社：教育画劇

きょうは待ちに待ったピクニックの日。仲良しのおともだちとでかけたこぶたちちゃん。森には素敵な音がいっぱい！！おいしいお弁当も食べられたかな？美しい色彩と楽しいしかけでお話が広がる人気シリーズ、第5作目。